

事例No.16

事業名		地域用水環境整備（単独魚道整備型）事業「旭川」地区	事例キーワード 斜路型魚道、工事工程配慮
事業担当機関		平鹿地域振興局 農村整備課	
事業期間		平成13年～17年	
実施場所		横手市	
事業概要	全体事業費	180百万円	
	工事概要	魚道整備 N=3カ所	
	事業の目的	既設農業水利施設（一級河川雄物川水系横手川）には既設3箇所で魚道が設置されているものの、河床低下や河川みお筋の流況変化により魚類の遡上を困難にしている現状である。 このことから、旭川地域内の一連区間に存在する当該3箇所の魚道機能を回復させ横手川の自然環境の保全を目的とする。	
環境配慮の内容	「区画整理、用排水路等の整備で生態系の保全に配慮した事例」 1．魚道の効果発現のために、現況河川の対象魚類等を調査。（本河川の生育ウグイ・鮎・アブラハヤ・オイカワ・カジカであり、このうち過半数を占める回遊魚のうちから、最も突進速度の遅い「ウグイ」を対象魚として選定） 2．周辺環境に配慮し、大規模な改修ではなく既設施設の再利用を促進する計画策定を行った。 3．施工時期の検討として、対象魚種の遡上期（4月～8月）を避け、10月以降の本体工事を実施。 4．対象魚のほか、既設魚道を遡上できない低生魚や甲殻類に対応するため、斜路型魚道を新設。 5．現場発生材（玉石）を活用し、可能な限り環境配慮およびコスト縮減に努めている。		
の施工状況後	1．現在事業継続中であるが、施工済み箇所には魚類の遡上が確認されている。なお、事業完了時には再度魚類の遡上調査を実施し、事業効果を検証する予定である。		

図面、写真、説明

現況施設 度重なる洪水等の理由から、河床低下及びみお筋が魚道と離れている。



魚道設計と施工状況

魚道側面図

